

令和2年度 長与中学校学校評価に関する学校関係者評価

項目	重点目標及び取組内容	評価値 (昨年)	評価の妥当性 (○△)	分析 (○成果及び●課題)	学校関係者評価の意見
心の豊かさ と自ら学ぶ力を 育てる 学校教育の 実現	1 豊かな心の育成 (1) いじめへの対応 ・サインに気づき、生徒理解とトラブル発見 ・未然防止、早期発見、早期対応	3.6 (3.5)	○9 △1 おおむね妥当	○いじめ対応については、毎日の生活の記録や日々の見守り、毎月の悩み調査で情報を把握し全職員で組織的かつ迅速に対応して未然防止や早期解決に努めた。 ○毎週の生徒指導部会、特別支援部会が有効に機能し、課題共有と全体対応ができた。SSWや子ども政策課等、外部機関との連携も図った。 ○電話連絡や家庭訪問による欠席がちな生徒への対応や完全不登校生徒の特殊出席扱い対応により、学習や進路への意識変化を促すことができた。 ●不登校生徒が昨年度の半数程に減少したがまだ解消できていない。	○子どもたちもストレスがたまっていると思いますが、先生方がよく気を配ってくださっている。 ▲(1)～(4)の評価値に疑問を持たれた方が1名おられた。 (理由は無回答)
	(2) 情報共有と迅速な組織対応	3.5 (3.5)	○9 △1 おおむね妥当		
	(3) 不登校への対応 ・個に応じたきめ細かな対応	3.6 (3.2)	○9 △1 おおむね妥当		
	(4) 通いたくなる学校 ・学校が楽しい(生徒アンケート)	3.4 (3.4)	○9 △1 おおむね妥当		
	2 基礎学力の充実 (1) 分かる授業の実施 ・分かる授業、できる授業のための授業改善	3.5 (3.5)	○10 妥当	○研究発表に向けて、教師の授業改善への取組は熱心であった。 ○本校生徒の基礎学力の向上のために、ながよ検定へ向けた地道な取組も定着しつつある。 2学期のながよ検定で昨年度よりも合格率が○、○ポイント上昇した。 ●学力差が大きく、家庭学習など学習習慣が身に付かない生徒がいる。生徒の特性等を把握し、家庭と連携していくことが課題である。	○今後も、学力向上の取組を継続してほしいです。 ●家庭学習については以前から課題があると思いますが、引き続き御指導をお願いしたいです。 ▲家庭学習を自らする習慣が身に付いていないと思います。
	(2) 家庭学習の習慣化に向けた指導	3.4 (3.3)	○9 △1 おおむね妥当		
	(3) 学習規律と学習習慣確立に向けた取組	3.4 (3.5)	○9 △1 おおむね妥当		
	3 健康安全教育の推進 (1) 心身の健康・安全についての指導	3.2 (3.0)	○10 妥当	○コロナの防止対策や新しい生活様式の定着のための指導、誹謗中傷の加害や被害への防止対策など全職員が一丸となって指導徹底を行った。 ○様々な学習会を実施し、安全管理への意識を向上させた。(メディア安全、DV防止、性教育、食育、薬物防止) ●体育大会や県中総体をはじめ各種大会が中止や条件付き開催となり、生徒の体育的な活動を充分行えなかった。	○大変な中での御指導だと思いますが、活動の場が少しでも広がっていくことを願っています。 (-)3(2)についてはコロナ禍であるため、評価項目として値を出せるのかどうか気になります。
	(2) 体育的行事や部活動による、たくましい生徒の育成	3.1 (3.4)	○9 (-)1 おおむね妥当		
	(3) 生徒の危機管理意識と自己防衛力の育成 (アレルギー、SNS、薬物、DV等)	3.6 (3.4)	○10 妥当		
	4 特別支援教育 (1) 一人ひとりのニーズに応じた支援 ・支援計画や理解支援シートの作成と活用	3.2 (2.8)	○10 妥当	○特別支援教育部会を中心として、情報共有と対策の検討を行い、指導方針を共有するとともに、細やかな支援指導を行う体制ができている。 ○生徒の困り感を把握し、細やかに対応する姿勢を各職員が意識しており、個に応じた指導実践を行っている。	○個々の問題だと思いますが引き続きの御指導をお願いします。
	(2) 困り感のある生徒の状況共有と対策検討	3.5 (3.2)	○10 妥当		
	(3) 困り感のある生徒への支援や言葉かけ	3.5 (3.2)	○10 妥当		
	5 国際化への対応 (1) 日本人としてのアイデンティティの確立 ・日本文化や地域の理解、協調性や人間性の育成	2.9 (3.1)	○10 妥当	○各学年で実施可能な学習活動を設定して、総合的な学習を実施した。 ●地域との交流学习や職場体験学習、修学旅行など、生徒の視野を広げ、社会に学ぶ機会が減少した。 ●コミュニケーションの機会やグローバルな視点を磨く機会を具体的にすることが困難であったこともあり、どの項目も達成度が低下した。	○このような状況では、仕方ないことだと思います。 ○社会でも急速にWEB会議等のシステムが普及しています。学校もこういったものを活用して、機会を創出してほしいです。よりグローバル化が進むよいきっかけかもしれません。
	(2) コミュニケーション能力の育成 ・他を認め、ともに高め合う意識や対話力の育成	3.0 (3.2)	○10 妥当		
(3) グローバルな視野と融和の精神 ・世界情勢や人としての在り方についての考察 ・広い視野を持つことの大切さの考察	2.8 (3.0)	○10 妥当			
6 教育環境の整備 (1) HPやメールを活用した安全確保等の連絡	3.2 (3.2)	○10 妥当	○コロナ禍での緊急連絡や安全確保の徹底においてメール通信やHPの活用は有効であった。 ○教室環境の整備は、生徒の保健安全と密接に関わりがあり、環境整備を全職員が一丸となって徹底した。 ●感染症防止のため、タブレットの共用が制限され、十分な活用ができなかった。	○HP、メールが活用できることはよいと思いますが、どうしても苦手な方たちへの配慮もお願いします。	
(2) タブレットや電子黒板等の学習機器の活用	3.1 (3.1)	○10 妥当			
(3) 日常の環境整備、資源のリサイクルへの心がけと生徒への指導	3.4 (3.3)	○10 妥当			
7 教職員の資質向上 (1) 指導力向上に向けた研修意識の高揚	3.4 (3.4)	○10 妥当	○深い学びにつながる対話に関する研修を全職員一丸となって行った。 ○生徒の安全を第一と考え、職員同士の食事会や酒宴は一切行っていない。 ○PC掲示板での迅速な連絡と全曜日に網羅した各種部会での確認を生かして、連携を深めた。	○先生方も毎日大変だと思います。心身ともに気をつけてください。	
(2) 服務規律遵守と体罰やハラスメントの撲滅	3.8 (3.7)	○10 妥当			
(3) 風通しの良い職員室づくり	3.5 (3.5)	○10 妥当			